

地域再生とまちづくり

各都市が目指すものは

<第35回>

県北地域の中心地

大田原市は栃木県北東部に位置する人口約7・5万人の都市である。かつては大田原氏の城下町として、また、旧奥州街道の宿場町として発展し、物資の集散基地として発展してきた。

集積。県北地域の政治・経済・文化の中心としての役割を果たしてきた。

近年は交通機関の発達や生活様式の変化により、商業施設の減少、人口減少で空洞化が進み、空き地などが増加している。その一方、周辺幹線道路沿いへのロードサイド型店舗の出店意欲は旺盛で、新規の宅地開発も郊外部に集中し、市街地空洞化の状況に特

徴。県北地域の政治・経済・文化の中心としての役割を果たしてきた。

中心市街地はメイン通りである中央通り、旧奥州街道の薬師通り、お城山通りなどに昔ながらの各種小規模店舗が集積するほか、県庁出先機関、裁判所支部などの公共施設が

栃木県大田原市・中心市街地の活性化を推進



08年の活性化基本計画で整備された再開発ビル「トコトコ大田原」(右手)。左はあらまち蔵屋敷

16年に増強計画策定 にぎわい創出 補助も



交差点に整備された金燈籠ポケットパーク

「魅力づくり」プロモーション」に基づく各施策の検討と、そのための「空き地・空き家・空き店舗」の有効活用を掲げた。

既に「中心市街地にぎわい創出事業補助金」を活用したNPO法人による各種イベントなどのソフト事業が動き出し、今後、具体的な計画づくりと検討支援を目的に、「市街地総合再生計画」の策定を視野に入れている。

近隣では、今年8月の着工を目指して市役所新庁舎の建設計画も進ちよく中であり、今後も大田原市中心市街地の動向を注視したい。

(日本不動産研究所宇都宮支所、不動産鑑定士・永井正義)

段の変化はない。

栃木県が公表した16年地価調査結果では、中央通り沿いの調査地点(大田原八景V5-12)の変動率は引き続き下落となった。

車の通行量が増加するなど一定の効果がみられた。しかしながら中心市街地を取り巻く環境は依然として厳しく、市は16年に「中心市街地総合再生基本計画」を策定している。「わかもの・子育て世代を惹きつけるまちづくり」を目標に、定住人口・交流人口の増加とにぎわいの形成に向けて、「環境づくり」

08年から整備事業

こつした中、大田原市は中心市街地活性化を目指し、08年に「中心市街地活性化基本計画」を策定。中央通り街路拡幅整備事業やポケットパーク等整備事業を実施してきた。さらに商業施設、公共公益施設、住宅からなる再開発ビル「トコトコ大田原」を整備したことで、歩行者、自転

